

NPO 法人 生物多様性農業支援センター 設立趣意書

田んぼの生きもの調査プロジェクトの活動も 2005 年にスタートして早いもので 4 年目を迎えました。そしてここ数年の間で私たちの活動を取り巻く情勢は大きく変わりました。

昨年の 7 月には初めて農水省版の生物多様性戦略が策定され、11 月には第 3 次生物多様性国家戦略が閣議決定されました。更に今年の 10 月に韓国でラムサール条約第 10 回締約国会議が開催され、水田が米を生産する機能だけでなく、水鳥にとっても大切であるとの水田決議がされる予定です。2010 年には名古屋で生物多様性条約の第 10 回締約国会議が予定されており、そこでは種の減少レベルに歯止めをかける国際的生物指標が設定される予定です。

このような情勢のなかで田んぼの生きもの調査活動はプロジェクトという任意団体として進めてきましたが、もはやその活動を内外に明らかにして生物多様性という視点からの農業の大切さを国民に広く訴えなければならなくなりました。更に、ガットウルグアイラウンドで合意されている緑の政策に基づく本格的な直接支払いを導入しなければなりません。しかし本格的な直接支払いに対する国民的合意は形成されていません。そこで国民的合意形成をするために、生産者の行動規範として生きもの調査を位置づけ、更に消費者の行動規範として民間型環境直接支払いを位置づける新しい取り組みが必要となっています。

今回、田んぼの生きもの調査プロジェクトを生物多様性農業支援センターと改め、NPO 法人として出発することにしました。

農に根ざした地域の伝統文化を守り、総ての経済活動に優先する地球環境問題に取り組む農業を支援します。更に、生きもの調査に基づいた農業を通じて人間中心の考え方から脱却し、生きものとの一体となった地域社会の価値観を創造します。

この生物多様性農業支援センターは、目的を共有化する農業者（林業、漁業も含む）、生産法人、市民、消費者団体、自然保護団体、地域活動家、教育活動家、環境 NPO、行政、JA、学識者などがテーマ別に幅広く連携、協働していくネットワークの核となることを目指します。更に、CSR 活動を展開している民間企業とも提携し、人と生きものに優しい農業と活動の輪を広げてゆきたいと思っています。

2008 年 5 月 22 日